

SST®

by Sony and Monotype

Monotype

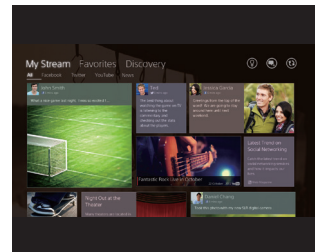
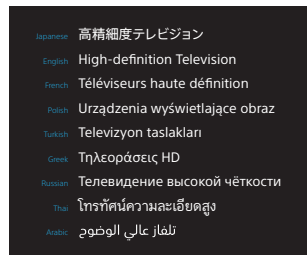


ソニーのチーフアートディレクター福原氏(左)とモノタイプのタイプディレクター小林(右)

初期段階から英語や日本語はもちろん、ギリシャ語やタイ語、アラビア語にも対応するなど、これまでにないスケールで進められました

商品の小型化が進み、ハードウェアに記載される文字が小さくなる一方で、スマートフォンやタブレットなどディスプレイでの体験が主役になりつつあります。こうしたハードウェア上の表記はもちろんコンテンツを快適に楽しむ上で、文字の読みやすさはとても重要です。また、「フォント(書体)」の印象は商品のイメージだけでなく体験そのものに影響を与える大切なデザイン要素。ソニーが提供する商品そのものの価値や体験の質をさらに高めるためには、フォントのデザインにまでこだわる必要があると考えました。また、ソニー独自のフォントを開発することで、広告やwebサイトだけでなく、店頭でのプロモーション、商品、サービス、取扱説明書に至るまで、ユーザーとのあらゆるタッチポイントでソニーならではの共通の感動体験を提供できるはずでした。こうして、ソニー全体で使うためのコーポレートフォントの開発プロジェクトが始動しました。

SST®フォントの開発は、世界のあらゆる地域で共通の体験を提供するために、初期段階から英語や日本語はもちろん、ギリシャ語やタイ語、アラビア語にも対応するなど、これまでにないスケールで進められました。小林氏によるディレクションのもと、実際にその言語を使う現地のデザイナーの意見を取り入れながら、それぞれの言語で最適化を図っています。こうして各言語にSST®フォントのコンセプトを反映させながら、最終的にはこれまでのフォントの常識を超える93言語まで対応し、世界中で共通のコミュニケーションを可能にしています。



小林 章 (こばやし・あきら)

2001年に独ライノタイプ社(2013年に社名をモノタイプに変更)のタイプディレクターに就任。現在、ドイツ在住。書体の品質管理のほか、自身のオリジナル書体の制作、有名な書体デザイナーであるヘルマン・ツェップ氏やアドリアン・フルティガー氏と共同での書体開発、過去の書体ファミリーの改刻、企業制定書体(コーポレートタイプ)の開発を担当している。欧米、アジアを中心に講演やフォントデザインワークショップを行っているほか、世界的なタイプフェイスデザインコンテストの審査員も務める。

左上: SST®の対応する93言語中の一部
左下: 製品番号の組版用に特別に準備されたハイフンの組見本
右3つ: SST®の使用例